国際森林認証による震災復興

南三陸森林組合 代表理事組合長　佐藤久一郎

宮城県南三陸町は、町境が分水嶺によって囲まれ、町内に降った雨が全て川を通じて里を潤し、最後は志津川湾に流れ込む地形です。志津川湾は牡蠣、ホタテ、ワカメ、銀鮭等の養殖漁業が盛んで町の基幹産業です。上流に育つ南三陸杉は樹高が高くあまり太くならず、年輪が目詰まりし、美しい淡いピンク色の芯材が多く、比較的強度がある良材です。この「南三陸杉」で家を建てたいという工務店・施主・設計事務所により毎年数十棟「顔の見える家づくり」が実践されてきました。

2011年３月11日東日本大震災により南三陸町は津波で壊滅状況となり、漁業だけでなく商業・工業・農業も大きな被害を受け、無傷で残ったのは町の77%の面積を占める森林だけでした。森林組合は被災直後から「南三陸材による復興」を町に働きかけ、地元の木を使って地元の大工さんによる仮設住宅(14戸)・災害公営住宅(92戸)・地区集会所(14棟)の建設を実現しました。

一方、森林を管理する立場の森林組合として町の震災復興に何をすべきか議論すべく「森林組合フォーラム」を開催し、川や海への山側の責務として自然環境に配慮した適切な森林管理はいかにあるべきかを考え、FSC国際森林認証(以下「FSC認証」)取得を決意しました。江戸時代から良材として受け継がれてきた「南三陸杉」のFSC認証取得を機に、その価値にふさわしいブランドとして打ち出し、地域林業の発展につなげたいと考えました。

15年10月に1,314haの森林でFSC認証を取得し、地元製材所もFSC-CoC認証(加工・流通過程の認証)を同時取得しました。並行して南三陸町を山から動かすプロジェクト「山さ、ございん」(山にいらっしゃい)を立ち上げました。林業の再生により生物多様性を維持しつつ、山・里・川・海の連環をとりながらその魅力を発信し、より多くの方に南三陸町のファンになって頂くことを目指し様々なプログラムを実践しています(森林・製材所見学、火防線トレイル、チェックツリー・ツアー、イヌワシ生息環境再生プロジェクト等)。

FSC認証を取得した同年10月は、南三陸町役場庁舎の設計ができ上がった時期でした。町長の英断により庁舎建設に認証材を使い「FSC全体プロジェクト認証」取得に取り組んで頂きました。その結果、建設にかかわった企業や関係する企業がFSC-CoC認証を取得し販売先が多様化しました。役場庁舎は公共施設FSC全体プロジェクト認証で日本初の取得となり、その後も生涯学習センター(図書館・中央公民館)、民間新築戸建住宅等でプロジェクト認証取得が続いています。認証林面積も2,468haに増え、認証材の出材も年間6,000㎥を超えました。南三陸町ではFSC森林認証に続いて牡蠣養殖でASC国際養殖認証を取得しました。震災を機に地域のあり様を再考し、山と海の国際認証を取得した南三陸町はSDGs時代に向けた一歩を踏み出しました。

（さとう　きゅういちろう）

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/